

浜の田川をきれいにする会

長崎県雲仙市国見町



会長 林田益太郎さん

子どもたちが遊び学んでいく場所を守りたい。

島原半島の北部に位置する国見町は、高校サッカーの強豪校があるまちとして全国に知られています。雄大な雲仙山系を背にした自然豊かなこのまちの中央に、有明海へと注ぎ込む土黒川ひじくろがわがあります。特に河口付近では、このあたりの浜の田という地名から、地元の人からは「はまんた川」と呼ばれ親しまれています。

今日はその「はまんた川」をきれいにする日。自前の草刈機を抱えたたくさんの人が、朝早くから集まってきます。「気軽に清掃活動に参加できるように、集合時間は決めていないんですよ。だから早い人は朝の6時頃から来て草刈りをやっています。」と語るのは、『浜の田川をきれいにする会』会長の林田さんです。この会をつくるきっかけをうかがいました。

「私が子どもの頃は、この川でいつも遊んでいました。この川で友だちと遊びながら、いろんなことを学んだんですよ。ところが大人になるころには、どこに水が流れているのかさえわからなくなるほど草は伸び放題。そんな危険な川には誰も寄りつかなくなりました。それであるとき気づいたんです。自分たちの子

どもの頃にはあんなにお世話になった川なのに、今は子どもたちの遊ぶ場所を私たち大人が守っていないじゃないかって。そこでほんの数人で始めた川の清掃活動だったんです」。



平成13年から始まった川の清掃活動は、すぐにたくさんの人が参加するようになりました。夏は毎月、冬は2ヶ月に一度、毎回100名近いまちの人たちが、力をあわせてこの川をきれいにしていきます。そして5月にはたくさんの鯉のぼりをあげたり、8月の灯籠流しや9月のいかだ流しなど、さまざまなイベントも開催されるようになり、子どもからお年寄りまで多くの人に親しまれる場所になったそうです。

「自分たちのふるさととは自分たちで守る。そのことを子どもたちに伝えていくことが大切だと思います。今の子どもたちが大人になってからも、子どもの頃に遊んだこの川を懐かしんでほしいですね」と笑顔で語る会長さんでした。

